

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570207530		
法人名	有限会社 母恵夢		
事業所名	グループホーム 母恵夢		
所在地	秋田県能代市能代町字中川原26-984		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員は、日頃からコミュニケーションがよく取れており、気軽に相談できる関係を築いています。職員は、利用者それぞれの状態をよく把握しており、毎日の申し送りや毎月1回のカンファレンスを通して微細な事があっても変化を見逃す事なく情報を共有しています。その日その時に必要と思われるケアをすぐに取り入れられる環境にあり、日々改善を図っています。利用者家族とは、月に一度の近状報告のお便りやイベントがあった際は写真を添えたりしています。また、利用者家族と近隣住民の方々のイベントへの参加や、推進会議への参加もあり、いつでも気軽に寄れる開かれたホームになっています。冬になると雪かきをしてくれる方や家庭菜園の野菜を届けてくれる方もおり、近隣住民の方々と良好な関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問時、近隣の方達が草刈りを行ってくれており、避難訓練時にも近所の方が参加して見守り協力体制ができていことから、地域と日常的に交流できているホームと言える。
今年度のコロナ禍の中、3月～5月の外出頻度が減ってしまったことで、利用者の歩行状態が以前より不安定になったり、短い距離でも疲れやすくなったりしている。そのため、6月からは散歩や外出機会を多くし、少しでも活動的な生活ができるように努めているとのこと。体力維持、健康重視でなるべく車椅子にならない支援を心掛けている。また、利用者一人ひとりの意向を大事にし、喜びや幸せを考慮した支援が行われている。職員のアットホームさが利用者にも伝わり、共用空間では利用者と職員の会話が飛び交い、にぎやかで温かみのある雰囲気を感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスの中で理念について確認をし、実践に繋がるよう話し合っています。	理念のとおり、思いやりの気持ちを大事にして、安心して暮らせるよう、一人ひとりが喜びや幸せを感じられるよう支援している。毎月のカンファレンスでは、利用者の声を大事に、やりたい事、見たい事を実践できるように話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々とは、運営推進会議、地域の子供神輿、ホームイベント等を通して、積極的に交流を図っています。	訪問当日も、近隣の方達が草刈りを行ってくれており、日常的に交流できている事が確認できた。普段から挨拶はもちろん、野菜を持って来てくれたり、子供みこしに誘われたり、施設の避難訓練に来てもらったりと、地域の一員として繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の中で、認知症への理解、支援の仕方等について話し合い情報を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現在の状況、ホームでのケアの仕方等について会議の中で報告をしています。合わせて地域の情報、助言をいただいています。	毎回、開催案内の配布を近隣住民の方が行ってくれている。運営推進会議には8~9人が集まり、避難訓練時の動きやヒヤリハットに関する具体的な対策及び工夫等について活発な意見が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として毎回出席いただいています。ホームのサービス状況を説明し、助言やアドバイスをいただいています。	市町村で開催されている研修を参考に、警察を呼んで特殊詐欺についての研修を行う計画を立てていたが、今年度はコロナ禍の中、開催が延期となった。地域包括支援センターや社会福祉協議会との協力関係を築きながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の特性を理解し、ケア内容を話し合い、身体拘束をしないケアについて取り組んでいます。	毎年外部の研修に参加しているが、今年はコロナの影響で参加できなかった。施設内での身体拘束の事例は無いが、資料を見ながら毎月の会議の中でカンファレンスを行っている。事務社内にもマニュアルが掲示されており、年末に事業所内でテストも開催されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの中で、高齢者虐待について学習し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度利用者があったため、制度の内容、利用方法、支援内容等は職員全員が良く理解しており、活用に関しては問題はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前と締結時に詳しく説明を行っています。不安、疑問点については、納得していただけるまで説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望はすぐに職員、管理者に引き継がれています。利用者家族とは、面会時や近況報告の手紙等で反映させるようにしています。	遠方に住んでいる家族の方には手紙で様子を伝えるなど、関係が薄くならないようにしている。日常生活に関することより「通院して欲しい」「歯の治療をして欲しい」といった医療系の意見が多く、都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議で出た意見や、日々の意見は、速やかに反映させるように努めています。	利用者中心の意見が多く、「ふらつきが増えてきた」「入れ歯が合わない」「〇〇を買いたい」等、日々の意見を反映させている。又、資格取得の希望があれば会社が費用の半分を負担したり、会社負担で模擬試験を受講したりしている。休み希望についてもシフト作成時に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、要望や意見がある場合は発言をしてもらい、職場環境、条件の整備、向上心を持って働いていけるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、レベルに合わせスキルアップできるような研修への参加を勧めています。また、職員会議と合わせて内部研修を実施してケアの向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流する機会がありますが、それ以外での同業者との交流はほとんどないので、今後、交流する努力をしようと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人、家族と時間を掛けて面接し、生活歴を良く知り思いを傾聴し、安心を確保できるよう信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入初期での聞き取りを大事にしています。不安なこと、要望には迅速に対応するよう努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、お互いに感謝の言葉を掛け合える関係づくりをしています。また自立している利用者が、他の利用者へ声をかけてくれたり、手を貸してくれたり等、支えあい生活しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	微細な変化等も家族へ報告をするように心掛けています。家族と過ごす時間の大切さを理解していただけるよう、外出時や通院時など協力をしてもらえるようにしていきたいと思えます。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前連絡なく、仕事帰りの家族、親戚、友人がいつでも気軽に面会できるようにしています。また、行きつけの場所へは一緒に外出するよう支援しています。 ※コロナウイルスの感染状況にて対応が変わる可能性があります。	コロナ禍ではあるが、関係継続が出来るよう、マスクをし、場所を定め短時間で面会可能となっている。	今後も感染予防を徹底し、利用者、家族の意向に沿う支援に期待する。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格、関係性、コミュニケーション能力等を観察し、席の配置や介入の仕方を工夫しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談や、電話での近況報告等があり、継続して支援をするよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人、家族と時間を掛けて面接し、生活歴を良く知り思いを傾聴し、安心を確保できるよう信頼関係を築いています。	利用者自ら意向を話してくれるケースが多く、食べたいものなどの意見を取り入れながら支援している。 職員から提案し、促し、より多くの意向を引き出すよう努力している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境、生きがい等を把握し、ホームでの生活に活かせるよう努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握に努め、食事の準備、洗濯物畳みや花壇の手入れ等、利用者の有する力が発揮できるように努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開催しており、6か月に1度モニタリングを行い、介護計画見直し時には利用者と家族に意見や要望を聞き、現状に即した介護計画を作成しています。	居室担当制を採用しており、毎月のケアカンファレンスでは都度全利用者について時間をかけて話し合っている。面会時には家族の意向を確認し、遠方に住んでいる方には電話で確認するなど、少しでも多くの意向を引き出すよう努めている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子やケア内容は、個別に記録し申し送りノート等で情報を共有できるようにしています。毎月、ケアカンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅での生活により近づけるように、利用者の趣味や好みを把握し、地域資源を活用しながら安心して暮らせるよう支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理を適切に行っています。かかりつけ医、馴染みの医院等へ通院を継続し（ケースによっては家族が受診介助を行う）、また毎月一回協力医往診により健康相談を実施しています。	殆どの利用者は元々の病院にそのまま通院している。受診は基本的に職員が対応している。薬も、利用者ごとのかかりつけ薬局を利用しており、個々の薬局と相談できる関係ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない為、職員は常に体調悪化等の早期発見ができるように努めています。特変時は、協力医へ速やかに連絡し、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者から情報をいただき、家族やホームからの希望等を的確に伝えて、安心して治療できるように努めています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化や終末期について利用者、家族の意向、またホームでの対応方法を説明して理解を得ています。さらに、近隣住民の方に緊急時の協力を得る体制づくりができています。	看取りは行っておらず、入所時に家族にも説明している。重度化した場合は、関係機関と連携を図りながら病院や施設変更の手続きを行っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変時の対応方法を共有しています。職員会議で施設内研修を行っていますが、実践力には差があり、不安を感じている職員もいる為、訓練の強化をしていかなければいけないと思っています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時を想定した避難訓練を行い実践対応できるようにしています。今後、水害時の想定した避難訓練を実施する予定です。町内会長、地域の住民にも災害時、避難時の協力をお願いしています。	避難訓練時には近所の方も参加し見守り協力をしてきている。地域住民の協力体制が築かれている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け、職員の表情、態度にも気をつけて対応するように心掛けています。	声掛けの仕方を職員間でも注意し合って対応している。利用者間で言った言わないのトラブルが多いが、何かあった際は職員が間に入りフォローし合っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとしたペースで利用者がどのようにしたいか等、意思を表示しやすいような雰囲気作りを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、1日の流れに沿って生活していますが、利用者一人ひとりの体調や気分に合わせて、利用者のペースで過ごせるように支援しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に衣料品などの買い物の支援をしています。美容院の訪問もあり、カットや白髪染め等に対応してもらっています。女性ばかりの入居者である為、身だしなみは大切にしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューのリクエストがあった場合は、なるべく応えるようにしています。食事前の配膳、食後の下膳、テーブル拭き等は利用者が進んで行っています。台所の手伝いが出来る利用者には、茶碗拭きや野菜の皮むき等、職員と一緒に食事準備をしています。	買い物はスーパーに3日に1回行き、同じメニューにならないよう、季節感を大事にするなど配慮している。土曜日はカレーの日となっており、利用者も楽しみにしている。食べたい物があれば、近いうちに設定するように心がけている。外食もいろいろ楽しんでいるが、コロナ禍により外食が難しい時は出前を取るなど工夫している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の実施表、献立表を作成し、食事や水分の摂取量を記録しています。また、身体状況により主治医と相談し、適切に保たれるように支援しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりにあった口腔ケアを実施しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムや能力を把握し誘導を行っています。立位が可能な利用者は、トイレでの排泄を促しており、現在は全ての利用者がトイレで排泄をしています。カンファレンスではオムツ、リハビリパンツの使用について、常に話し合っています。	全員自立しており、チェック表などは排便チェックのみ1名だけ行っている。パッドを隠してしまう事も有る為、定期的に居室内の確認を行っている。前回の外部評価にてトイレの数が少ない事について話し合い、職員のトイレを利用者にも開放するなど工夫し、改善されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便リズムや水分量を観察し、予防に取り組んでいます。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日、時間を決めています。健康状態や気分に合わせて入浴するタイミングがあれば柔軟に対応しています。入浴を拒否する利用者には、声の掛け方や誘導の仕方を工夫しています。体調不良や拒否等で入浴できなかった時は、温タオルで清拭をしています。	週2回(月・木)(火・金)の午後から入浴を行っている。一人ひとりに合わせ、背中・洗髪のみ介助を行ったり、同性介助希望者には曜日を変更して対応したりと、個々に沿った支援を行っている。脱衣場には電気ストーブを点け、温度にも気をつけている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や温度に合わせた寝具、清潔な寝具で快適に安眠をしてもらうように支援しています。利用者のペースに合わせて、休みたい時に休んでいただいています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	季節や通院、服薬管理は充分に行っています。また、異常があれば早期に対応し、かかりつけ医へ受診または協力医の往診を受けています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のそれぞれ得意な事を活かし、楽しく生活を送る事が出来るように支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、希望に沿えるよう支援しています。家族と共に外出される利用者もいます。 ※コロナウイルスの感染状況にて対応が変わる可能性があります。	利用者の希望に沿った対応をしている。箸や茶碗を一緒に買いに行き、お気に入りの品を選んでもらうなど、一人ひとりのニーズに沿った外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名の利用者は金銭管理能力があり、現金を所持しています。その他の利用者金銭管理が困難であり、預り金として管理をして支払いをしてもらっています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には、その都度支援しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しないように工夫し、生活しやすい配置をしています。廊下の壁には、季節ごとに利用者と共に作成した折り紙やぬり絵等を飾り、季節を感じられるようにしています。	毎月職員と利用者が一緒に折り紙で飾りを作成している。塗り絵は毎月名前を書いて全員の分を飾る様にしている。共用空間では利用者と職員の会話が飛び交い、にぎやかで温かみのある雰囲気を感じられた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でテレビや新聞を観ながら利用者と職員が談笑をしています。また、仲の良い人とおしゃべりが出来るよう、居場所の工夫もしています。疲れると居室に戻り休養し、思い思い自由に過ごされています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、今までの生活で使っていた馴染みの家具や好みの物を持ってきてもらい、本人が居心地良く過ごされるように配置をしています。	利用者が時間がわかりやすいよう、大きな時計を準備してもらっている。電気ポット以外は基本的に持ち込み自由で、衣類や椅子、電気毛布やテレビを持ち込んでいる。自分の部屋の居心地が良いようで、居室でテレビを観ている人も多い。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来る事を十分に活かした生活が送れるよう工夫しています。		